

資 料

コメニウス関係文献目録

井ノ口 淳 三*・太 田 光 一**

Works concerning J. A. Comenius

Junzo INOKUCHI and Koichi Ota

例 言

1. 本文献目録は, 1999年3月以前に刊行・発表された日本人によるコメニウスに関する著作を発行順に配列したものである。
2. 書評, 資料紹介, 随想, 翻訳等も含めた。
3. 通史の一部としてコメニウスを論じているものは, 原則として収録しなかった。
4. 記載事項の形式と順序は次の通りである。
 - ① 著者, 編著者, 訳者名
 - ② 著書, 論文, 翻訳書名
 - ③ 所収書, 掲載誌名
定期刊行物, 講座等の巻号の表記は, 例えば3巻4号を3-4とした。
 - ④ 発行所, 出版社名。
 - ⑤ 発行年月, 西暦表記。
以上数字の表記は, いずれもアラビア数字に統一した。
5. 編者の菲才のため遺漏はまぬがれ難いと思われる。今後ともご教示願うものである。

* 追手門学院大学人間学部

** 会津大学コンピュータ理工学部

著者名	著書・論文名	発行所	発行年月
コメニウス	(ゴンザ訳)『日本語会話入門』	私家版	1736
コメニウス	(ゴンザ訳)『オルビス・ピクトゥス』	私家版	1739
	コメニアス氏略伝	千葉教育会雑誌 8～10 立真舎出版局	1882. 11
本荘 太郎編	『教育古典』	博文館	1894. 1
真田 幸憲	『近世教育の母コメニウス』	金港堂書籍	1904. 8
コメニウス	(辻 幸三郎訳)『聖の世界と教育』	目黒書店	1924. 6
田 制 佐 重	『新訳世界教育名著叢書 5』	文教書院	1924. 10
梅 根 悟	近世教育思想史に於ける自然概念及び合自然原理の発展	大日本学術協会 教育学術界 67-3～68-3	モナス社 1933. 6 ～ 12
加 藤 三 郎	コメニウスの人生観・世界観とその教育理想	教育思潮研究 8-2	目黒書店 1934. 5
佐々木 秀一	『コメニウス』	岩波書店	1939. 1
山 極 真 衛	コメニウスの教授原理—「大教授学」を中心として	教育学研究 11-1～3	目黒書店 1942. 4
大 田 堯	『近代教育とリアリズム』	福村出版	1949. 6
兵 藤 三 平	『新教育の先駆者コメニウス』	交友社	1949. 11
上 野 辰 美	コメニウスの教育思想—『大教授学』を中心として—	西南学院大学論集 2-1	1950. 9
長 田 新	歴史を作る人々	日本教育学会紀要 教育学研究 20-3, 6	1953. 4
荘 司 雅 子	宗教的感覚的実在論—コメニウス『大教授学』の意図	広島大学 教育科学 10	1953. 11
鈴木 秀 勇	J・A・コメニウス『大教授学』の志向	一橋大学 一ツ橋論叢 29-6	1954. 6
E・シュブランガー	(村井・長井訳) コメニウス 憧憬に生きた人	『文化と教育』 玉川大学出版部	1956. 4
梅 根 悟	教育史上の人々 第二講 コメニウス	小四教育技術 9-3	小学館 1956. 5
梅 根 悟	『コメニウス』	牧書店	1956. 10
コメニウス	(稲富栄次郎訳)『大教授学』	玉川大学出版部	1956. 10
長 田 新	書評：梅根悟著『コメニウス』を讀みて	教育学研究 24-2	1957. 4
石 井 正 司	チェコスロバキアにおけるコメニウス研究について	教育史学会紀要 日本の教育史学 1	講談社 1958. 10
Tatsuo Morito	Address on the Occasion of Comenius Festival	<i>Acta Comeniana</i> XVIII-1	1959. 3
江 藤 恭 二	コメニウス研究叙説	九州大学紀要 6	1959. 6
長田 新(編著)	『国際理解の教育—コメニウス三百年記念祭を迎えて—』	育英書店	1959. 9
R・アルト	(江藤恭二訳)『コメニウスの教育学』	明治図書	1959. 9
長 田 新	自由解放の教育学—コメニウス教育学をどうみるか	教育学研究 26-3	1959. 10
Arata Osada	Slavností Projev při Oslavě Třístého Výročí Vydání Komenského Souboru Opera Didactica Omnia na Universitě v Hirošimě	<i>Acta Comeniana</i> XVIII-2	1959. 10
Eiiči Čino	Comenius Festival at Hiroshima University, April 26 1958	<i>Acta Comeniana</i> XVIII-2	1959. 10

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

- 鈴木 秀 勇 J. A. Comenius : Opera Didactica Omnia (1657) の新版, その他について
—(→)(←) 一橋論叢 43-2, 5 1960. 2
- 鈴木 秀 勇 コメニウスにおける Methodus analytica と Methodus syncritica
—V・イェリネクの見解への疑問 一橋論叢 43-3 1960. 3
- 鈴木 秀 勇 コメニウスのおいたち 『講座現代教育学2』月報1 岩波書店 1960. 9
- 鈴木 秀 勇 コメニオロジーの諸問題 一橋論叢 44-4 1960. 10
- Arata Osada Komenskýs Widergeburt Pädagogik der Freiheit
Acta Comeniana XIX-2 1960. 10
- 鈴木 秀 勇 コメニウスの教授学の方法 — その社会史的規定のために —
一橋大学研究年報 社会学研究 3 勁草書房 1961. 1
- 梅 根 悟 教育科学アカデミーのこと, コメニウスの consultatio のこと
教育学研究 28-1 1961. 3
- H・ホルンシュタイン (鈴木謙三訳) コメニウスの教授学とその哲学的基礎
教育哲学会紀要 教育哲学研究 4 1961. 4
- 梅 根 悟 民主教育の光をかかげた人① コメニウス 日本教職員組合 教育評論 109 1961. 4
- 梅 根 悟 古典に学ぶ3 コメニウスのことば 生活教育 13-9 誠文堂新光社 1961. 8
- 江 藤 恭 二 コメニウスの汎知学思想について 名古屋大学教育学部紀要 8 1961. 9
- 鈴木 秀 勇 コメニウスの教授学的リアリズム — その基礎と意味 — 日本の教育史学 4 1961. 10
- Hitoshi Yoshimoto A Study of Comenius in Japan Acta Comeniana XX-2 1961. 10
『コメニウス文庫蔵書目録』 東京教育大学 1961
- 梅 根 悟 ソヴェート旅行記 チェッコ・スロヴァキアの旅 生活教育 14-2, 4, 5 1962. 2
- 江 藤 恭 二 コメニウス研究ノート (その2)
—その神学および教育目的に関する思想を繞って— 名古屋大学教育学部紀要 9 1962. 8
- コメニウス (鈴木秀勇訳) 『大教授学 1, 2』 明治図書 1962. 9
- 鈴木 秀 勇 コメニウスの『教育思想』 教育科学研究会 教育 150 国土社 1962. 12
- 柴 田 義 松 書評: コメニウス著鈴木秀勇訳『大教授学 1, 2』
現代教育科学 57 明治図書 1963. 1
- 梅 根 悟 『コメニウス』 改訂新版 牧書店 1963. 2
- 堀 内 守 <神の三書> 性とコメニウス教育学的方法的発展 教育哲学研究 8 1963. 6
- 梅 根 悟 教育技術学の開拓者コメニウス 日本教材新報 11-6 日本教材新報社 1963. 6
- 松 田 義 哲 コメニウス研究の新資料について 北海道学芸大学紀要 (第1部 C) 14-1 1963. 7
- J・ピアジェ (竹内良知識) ヤン・アモス・コメニウスの現在の意義
『ワロン・ピアジェ教育論』 明治図書 1963. 9
- 堀 内 守 コメニウス教育学の方法研究の前提 教育学研究 30-4 1963. 12
- 松 崎 巖 十七世紀スウェーデンにおける中等教育の成立過程について
青山学院大学教育学会 教育研究 10 1964. 5
- 高 崎 毅 幼子への愛に生きる J・A・コメニウス 基督教保育連盟 基督教保育 210 1964. 5
- 江 藤 恭 二 コメニウス研究ノート (その3)
—Bibliographie と Biographie (1592 ~ 1642)— 名古屋大学教育学部紀要 11 1964. 9
- 堀 内 守 コメニウスにおける教育学の方法の成立 東京都立大学 人文学報 47 1965. 3
- 村 山 七 郎 『漂流民の言語』 吉川弘文館 1965. 4
- 鈴木 秀 勇 ヤン・フスおよびヤン・アモス・コメニスキー研究の問題点
—チェコスロヴァキアにおける研究状況をめぐって— (一) 一橋論叢 54-3 1965. 9

江藤 恭二	コメニウス研究ノート (その4) —BibliographieとBiographie (1642～1670)—	名古屋大学教育学部紀要 12	1965. 9
鈴木 秀勇	ヤン・フスおよびヤン・アモス・コメンスキー研究の問題点 —チェコスロヴァキアにおける研究状況をめぐって— (二)	一橋大学研究年報 社会学研究 8	1966. 3
江藤 恭二	教育古典への招待, コメニウス	中学教育 11-3	1966. 3
梅根 悟	『教育史学の探求』	講談社	1966. 6
江藤 恭二	コメニウス研究ノート (その5)—『大教授学』における教授論および各科 教授法論に関する概観—	名古屋大学教育学部紀要 13	1966. 11
後藤 三郎	教育家コメニウス略伝	立教大学心理・教育学科 研究年報 10	1966. 12
江藤 恭二	『西洋教育史叙説—近代教育思想の形成』	福村出版	1967. 2
井谷 善則	コメニウス教授学の研究—汎教育 (Pampaedia) 思想の基礎的考察—	広島大学大学院教育学研究科修士論文抄	1967. 5
田中 昭徳	書評: 江藤恭二著『西洋教育史叙説』	教育学研究 34-3	1967. 9
江藤 恭二	田中昭徳氏の『西洋教育史叙説』への書評にこたえる	教育学研究 34-4	1967. 12
井谷 善則	近代教育方法意識の形成過程に関する研究—コメニウスの初期志向にかかわって—	中国四国教育学会 教育学研究紀要 13	1968. 3
梅根 悟	『西洋教育思想史1 神士教育論の時代』	誠文堂新光社	1968. 4
梅根 悟	コメニウス文庫について	東京教育大学図書館 図書館報 1-2	1968. 6
大橋 岑吉	コメニウスの幼児観	大阪樟蔭女子大学論集 6	1968. 11
遠山 啓	ヤン・アモス・コメニウス	朝日新聞 12月3日	1968. 12
堀内 守	コメニウスの《方法》の問題	名古屋大学教育学部紀要 15	1969. 3
大橋 岑吉	コメニウスの幼児観	大阪樟蔭女子大学 児童学研究 5	1969. 3
大橋 岑吉	コメニウスの幼児教育思想についての試論 (そのII)	大阪樟蔭女子大学 児童学研究 5	1969. 3
村山 七郎	コメニウスの著作の最初の日本語訳	慶応通信 教育と医学 17-5	1969. 5
梅根 悟	コメニウスのこと	潮出版社『講座日本の将来6』月報 4	1969. 5
梅根 悟	コメニウスと私	日本共産党中央委員会 文化評論 95	1969. 8
皆川 三郎	17世紀の語学教育改良論者 Johann Amos Comenius (Komensky) について	明治学院大学 明治学院論叢 147	1969. 9
高橋 勉	代理経験のメカニズム (2)—代理経験と教育メディア—	早稲田大学教育学部 学術研究 18	1969. 12
堀内 守	『コメニウス研究』	福村出版	1970. 1
貴島 正秋	コメニウス教育学の根本原理—Omnes, Omnia, Omnino について—	関西学院大学文学部 人文論究 20-3	1970. 1
	『コメニウス関係文献目録』	日本教育学会	1970. 8
是常 正美	書評: 堀内守著『コメニウス研究』	教育学研究 37-3	1970. 9
江藤 恭二	書評: 梅根悟著『西洋教育思想史』	教育学研究 37-3	1970. 9
三浦 正	児童教育論の史的考察—17世紀まで—	拓殖大学海外事情研究所 海外事情 18-10	1970. 10
小原 国芳	コメニウスを慕いて	玉川大学出版部 全人教育 254	1970. 10
グスタフ・シュミット	今日におけるコメニウス	玉川大学出版部 全人教育 254	1970. 10
稲富 栄次郎	コメニウスとチェコスロバキア	玉川大学出版部 全人教育 254	1970. 10
鈴木 秀勇	コメンスキーとルソー	一橋論叢 64-6	1970. 12

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

小川 正 通	コメニウスにおける幼児教育思想の展開 一生涯教育と家庭・集団保育の提唱	大阪市立大学家政学部紀要 18	1971. 2
堀内 守	各国のコメニウス研究の動向	名古屋大学教育学部紀要 17	1971. 3
堀内 守	近代における教授論の成立	高校生活指導 2 明治図書	1971. 4
山住 正 己	「大教授学」	朝日新聞 10月5日	1971.10
石井 正 司	ラトケの教授学	奈良教育大学紀要 20-1	1971.10
菅野 救 爾	コメニウスの「大教授学」における人間形成と終末論的立場について	折尾女子短期経済大学論集 6	1971.11
貴島 正 秋	コメニウスの学校改新論について	芦屋女子短期大学紀要 6	1972. 8
山中 義 教	J・A・Comenius の教育思想とその歴史的背景に関する若干の考察	私学研修福祉会 私学研修 56	1972. 9
石井 正 司	コメニウスにおける直観教授	奈良教育大学紀要 21-1	1972.11
梅根 悟	「コメニウス文庫」のこと	日本図書館協会 図書館雑誌 66-11	1972.11
藤田 輝 夫	“子どもっぽいやり方” の教育方法—J・A・コメンスキーの『母親学校の指針』研究—	東京教育大学大学院 教育学研究集録 12	1973. 2
井谷 善 則	特殊教育思想成立史論	大阪教育大学紀要 21	1973. 2
江藤 恭 二	コメニウス『 ^{コンスルグァティオ・カトリカ} 総勸告』研究序説(1)—『汎改革』を対象にして—	名古屋大学教育学部紀要 19	1973. 3
川森 康 喜	『大教授学』にみられるコメニウスの『技術』	龍谷大学教育学会 教育 8	1973. 3
江藤 恭 二	“Orbis sensualium pictus” に関する一考察—その成立事情と史的位置についての素描—	細谷俊夫編『学校教育学の基本問題』 評論社	1973. 4
井谷 善 則	コメニウスの幼児教育思想	幼児の教育 72-6 フレーベル館	1973. 7
谷口 政 己	J・A・コメニウスの言語教授について—『大教授学』の考察を中心に—	大阪教育大学 教育哲学論文集 1	1973. 9
貴島 正 秋	コメニウスの『世界の迷路と魂の楽園』における人間の諸様相について—特に人間の暗い、悲劇的な面—〔1〕	芦屋大学創立 10 周年記念論文集	1973.11
堀内 守	コメニウス『大教授学』—すべてを教育の相のもとに	梅根悟・長尾十三二編『教育学の名著 12 選』 学陽書房	1974. 2
藤田 輝 夫	J・A・コメンスキーの“直感教授” 思想の源流—『普遍的事物の劇場』を手がかりとして—	秋田大学教育学部紀要 24	1974. 2
谷口 政 己	J・A・コメニウスにおける言語教授学の構造	大阪教育大学大学院 院生論集 1	1974. 3
貴島 正 秋	コメニウス教育学における普遍的な光の道—〔I〕—	芦屋女子短期大学紀要 8	1974. 3
J・シュリジンスキー	(伊藤孝之訳) コメニウスのポーランドにおける活動とそのポーランド観	北海道大学法学部附属スラブ研究室 スラブ研究 19	1974. 8
貴島 正 秋	コメニウス教育学における普遍的な光の道—その〔II〕—	芦屋女子短期大学開学 15 周年記念号	1974. 9
菅野 救 爾	「大教授学」における教育目的と教育技術との関連について	折尾女子短期経済大学論集 9	1974.11
藤田 輝 夫	神の学校の思想とその崩壊—J・A・コメンスキーの『慰めの書』—	秋田大学教育学部紀要 25	1975. 2
梅根 悟	コメニウスのサロス・バターク学校	『世界教育史大系 23 初等教育史』 講談社	1975. 3

三輪和敏	コメニウスとデューイにおける視聴覚的方法—その現代的意義— 神戸大学教育学部 研究集録 53	1975. 3
長尾十三二	コメニウス・ベスタロッチ 教職課程 3 協同出版	1975. 9
五島忠久	Comenius の言語教授論 大阪教育大学紀要 24-1 (V. 教科教育)	1975. 10
梅津勝	『世界図絵』の認識論的基礎 北海道大学教育学部紀要 25	1975. 12
高橋勉	コメニウス“Pampaedia”(汎教育)にみられる生涯教育の構想について —(その1 ハレ草稿の発見とその概観)— 早稲田大学教育学部 学術研究 24	1975. 12
藤田輝夫	J・A・コメンスキーにおける社会改造と教育の思想 秋田大学教育学部紀要 26	1976. 2
貴島正秋	コメニウスの『世界の迷路と魂の楽園』における学問・教育批判 芦屋大学論叢 1	1976. 3
大橋岑吉	「教師としての母親」—コメニウスを中心とした— 大阪樟蔭女子大学 論集 13	1976. 3
井ノ口淳三	コメニウスにおける幼児教育論の展開とその背景 京都大学教育学部紀要 22	1976. 3
堀内守	バンソフィアの史的一局面『世界教育史体系 11 ドイツ教育史 I』 講談社	1976. 4
梅根悟	コメニウス 『世界教育史大系 38 道徳教育史』 講談社	1976. 8
石井正司	ルネッサンス・ユートピアンの教育思想 教育哲学研究 34	1976. 10
佐藤令子	コメニウスの「地上の迷路」—絶望からの回帰— 橘女子大学研究紀要 4	1976. 10
松崎巖	コメニウスとスウェーデン 『世界教育史大系 14 北欧教育史』 講談社	1976. 12
鈴木秀勇	十七世紀に見る・世界語の工夫—ヤン・アモス・コメンスキーの場合— 一橋論叢 77-3	1977. 3
寄田啓夫	コメニウスの幼児教育思想 荘司雅子編『幼児教育の源流』 明治図書	1977. 3
貴島正秋	コメニウスの『世界の迷路と魂の楽園』における宗教批判 芦屋大学論叢 2	1977. 4
井ノ口淳三	コメニウス関係日本語文献目録 教育学研究 44-3	1977. 9
貴島正秋	コメニウス教育学における普遍的な光の道—その〔Ⅲ〕— 芦屋女子短期大学紀要 11	1977. 10
貴島正秋	コメニウス教育学における普遍的な光の道—(そのⅣ)— 芦屋大学論叢 3	1978. 2
井ノ口淳三	『教授学』とクラスの問題 島根女子短期大学紀要 16	1978. 2
江藤恭二	外国文献紹介 ローベルト・アルト『教育と社会—教育学著作集—』 教育学研究 45-2	1978. 6
貴島正秋	コメニウス教育学における普遍的な光の道—(そのⅤ)— 芦屋大学論叢 4	1978. 6
貴島正秋	コメニウスの『世界の迷路と魂の楽園』における政治批判 芦屋女子短期大学紀要 12	1978. 7
貴島正秋	コメニウスの『世界の迷路と魂の楽園』における上流階級批判 芦屋大学創立 15 周年記念論文集	1978. 11
太田光一	西欧近代における人間観の転換と知と徳 東京大学教育学部教育史教育哲学研究室紀要 5	1979. 6
貴島正秋	コメニウスの『世界の迷路と魂の楽園』における知識階級批判 芦屋女子短期大学開学 20 周年記念論文集	1979. 9
大浦猛	西洋幼児教育思想の成立過程と幼児の認識活動の把握の推移 広島大学附属幼稚園 幼児教育研究紀要	1979. 11
菅野救爾	コメニウスの母国語学校とその教育的意図 折尾女子短期経済大学論集 14	1979. 11
佐藤令子	コメニウスにおける生涯教育の構想 橘女子大学研究紀要 7	1980. 3

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

貴島正秋	コメニウスの『天への手紙』における人間不平等起源論	芦屋大学論叢 5	1980. 3	
井ノ口淳三	汎知の人—コメニウス	鯉坂・岡田編『教育の歴史』ミネルヴァ書房	1980. 3	
佐藤守	近代実学主義の教育思想の形成—ベーコン, コメニウス, ロックを中心に	龍谷大学論集 416	1980. 5	
貴島正秋	コメニウスの『唯一の必要事』における人間研究	芦屋大学論叢 6	1980. 8	
堀内守	教育学の原点—コメニウスと現代	『原っぱとすみっこ—人間形成の構想』黎明書房	1980. 11	
貴島正秋	コメニウスの政治的使命(その1)—特に『平和の天使』において	芦屋大学論叢 7	1981. 2	
堀内守	コメニウス『大教授学』	上田薫編『人間の教育を考える 教育とはなにか』講談社	1981. 2	
堀内守	コメニウス『大教授学』とその時代	三枝孝弘編『人間の教育を考える 学校と教育方法』講談社	1981. 3	
井ノ口淳三	『母親学校指針』における年齢区分に関する考察	島根女子短期大学紀要 19	1981. 3	
伊東幸子	コメニウスの教育思想	緑ヶ丘学園延岡短期大学紀要 11	1981. 3	
貴島正秋	コメニウスの政治的使命(そのII)—特に『平和の天使』において	芦屋女子短期大学研究紀要 15	1981. 5	
貴島正秋	コメニウスの政治的使命(そのIII)—特に『平和の天使』において	芦屋大学論叢 8	1981. 8	
石井正司	『直観教授の理論と展開』	明治図書	1981. 10	
貴島正秋	コメニウスの『世界図絵』の出版過程について	関西学院大学教育学研究会 関教研論文集(仲原昌子教授還暦記念)	1981. 11	
江藤恭二	コメニウス遍歴	教員養成セミナー 12月号 時事通信社	1981. 12	
林正登	近代教育・教授論史の概括的考察—1—17世紀の教授学者とその普遍教育の提唱	福岡教育大学紀要 31-4 教職編	1982. 2	
貴島正秋	コメニウスの「魂の楽園」における真なるキリスト教徒とは	芦屋大学論叢 9	1982. 2	
鈴木秀雄	『コメニウス「大教授学」入門』上・下	明治図書	1982. 2	
江藤恭二	「子どもを生かす学校」はどう考えられてきたか—〈教育史(とくにコメニウスの努力)から学ぶもの〉—	学校運営研究 250 明治図書	1982. 3	
井ノ口淳三	コメニウスにおける教師論の成立	島根女子短期大学紀要 20	1982. 3	
藤田輝夫	コメニウス—近代ヨーロッパ教育学の創始者	松島・白石編『現代に生きる教育思想7』ぎょうせい	1982. 3	
市川定三	「大教授学」にみるコメニウスの人間観・教育思想について	鶴見大学紀要 19-3 保育・保健歯科編	1982. 3	
井ノ口淳三	コメニウス	清水益実編著『現代の幼児と保育』総合労働研究所	1982. 6	
佐藤令子	普遍的教科書 Pambiblia としての世界図会 Orbis Sensualium Pictus	奈良女子大学史学会 寧楽史苑 27	1982. 7	
太田光一	あらゆる人にあらゆる事を—コメニウス研究ノート(その1)—	高知大学教育学部研究報告第1部 34	1982. 8	
P・ベール	(野沢協訳) コメニウス	『歴史批評辞典I』法政大学出版会	1982. 11	
貴島正秋	コメニウスの『Centrum Securitatis』における神	—世界と人間との中心—について	芦屋大学論叢 11	1983. 2
井ノ口淳三	「生涯にわたる教育」に関するコメニウスの構想	島根女子短期大学紀要 21	1983. 3	

追手門学院大学人間学部紀要 第8号

杉山明男	外国の教科書のこと—コメニウスについて— 部落問題研究所 どの子も伸びる 3月号	1983. 3
杉山明男	コメニウスの世界絵図(その1) 部落問題研究所 どの子も伸びる 4月号	1983. 4
杉山明男	コメニウスの世界絵図(その2) 部落問題研究所 どの子も伸びる 5月号	1983. 5
佐藤令子	コメニウスにおける生涯教育の構想—誕生前教育と新生児教育— 橋女子大学研究紀要 10	1983. 7
貴島正秋	コメニウスの『Centrum Securitatis』における人間の混乱の動機 芦屋大学論叢 12	1983. 8
太田光一	僅かな労力で愉快に着実に——斉教授と教師の役割— コメニウス研究ノート(その2) 高知大学教育学部研究報告第1部 35	1983. 8
石橋哲成	『ヨーロッパ教育史紀行』 玉川大学出版部	1983. 9
貴島正秋	コメニウス教育学—祖国解放の父としてのコメニウス— 芦屋大学創立20周年記念論文集	1983. 11
井ノ口淳三	汎知教科書としての『世界図絵』 島根女子短期大学紀要 22	1984. 3
滝野実	ヨハン・アモス・コメニウスにおける教育理念 —自然性と愛の淵源についての一考察— 純心女子短期大学紀要 20	1984. 3
貴島正秋	コメニウスの『Centrum Securitatis』における人間の混乱の解決法 —神への帰依— Ⅲの(1) 芦屋大学論叢 13	1984. 5
堀内守	大教授学—17世紀の現象学— 玉川学園 全人教育 6月号	1984. 6
堀内守	『コメニウスとその時代』 玉川大学出版部	1984. 7
太田光一	理性・言語・行動—コメニウスの活動概念の検討— コメニウス研究ノート(その3) 高知大学教育学部研究報告第1部 36	1984. 8
P・ロッシ	(清瀬卓訳)『普遍の鍵』 国書刊行会	1984. 10
貴島正秋	コメニウスの「技術教育論」について 芦屋女子短期大学開学25周年記念論文集	1984. 11
江藤恭二	『世界子どもの歴史 第5巻 絶対主義・啓蒙主義時代』 第一法規	1985. 1
白石陽一	「教える」ことの技術の教授学の検討 教育方法学研究 10	1985. 3
秋葉美也子	コメニウスの幼児教育論(1)—『大教授学』を中心にして— キュークリヒ記念財団 乳幼児の教育 30	1985. 4
秋葉美也子	コメニウスの幼児教育論(2)—『母親学校指針』を中心にして— キュークリヒ記念財団 乳幼児の教育 31	1985. 7
新堀道也	コメニウスの教科書 『「殺し文句」の研究—日本の教育風土』 理想社	1985. 8
太田光一	コメニウスの発達段階論—コメニウス研究ノート(その4)— 高知大学教育学部研究報告第1部 37	1985. 8
黒沢惟昭	コメニウス・ルソの「自然」と「教育」—鈴木秀勇教授の教育研究方法 意識に触れつつ— 神奈川大学人文学会人文研究 92	1985. 9
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『ラテン語学習についての教授学論究』 私家版	1985. 12
秋葉美也子	コメニウスの幼児教育論(3)—『汎教育』を中心にして— キュークリヒ記念財団 乳幼児の教育 33	1986. 1
藤田輝夫	コメニウスの『教授学』から『大教授学』への理論的發展—『ラテン語 学習についての教授学論究』を手がかりにして— 教育方法学研究 11	1986. 3
梅津勝	J・A・コメンスキーの教授学の基本原理—「促進」と「抑制」の調和— 帯広畜産大学研究報告 人文科学論集 7-1	1986. 3

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

- 小 泉 一太郎 初等教育の思想について—コメニウスを起点として—
群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編 35 1986. 3
- 井ノ口 淳 三 『世界図絵』におけるコメニウスの「教育的配慮」 教育哲学研究 53 1986. 5
- F・イエイツ (山下和男訳)『薔薇十字の覚醒—隠されたヨーロッパ精神史』 工作舎 1986. 7
- 秋 葉 美世子 コメニウスの幼児教育論—『大教授学』『母親学校指針』『汎教育』を中心として— 日本ベスタロッター・フレール学会 人間教育の探究 創刊号 1986. 7
- コメンスキー (藤田輝夫訳・解題)『母親学校の指針』 玉川大学出版部 1986. 8
- 太 田 光 一 成年期の教育課題—コメニウス研究ノート(その5)—
高知大学教育学部研究報告第1部 38 1986. 8
- 井ノ口 淳 三 『世界図会』の異版本に関する一考察—英訳1777年版を中心として—
教育方法学研究 12 1987. 3
- 井ノ口 淳 三 コメニウスの教育方法思想—すべての人に、わかりやすく—
川合章編『子どもの人格と学力 4 教育方法と教育実践』 労働旬報社 1987. 4
- 江 藤 恭 二 近代における教育の世界像—コメニウスにおける「汎」の意識の形成を通しての考察— 小林・江原編『国際化社会の教育課題』 行路社 1987. 6
- 柳 橋 俊 翁 コメニウスの学級教授論における「協同」について 関西教育学会紀要 11 1987. 7
- 太 田 光 一 コメニウスの『総勧告』研究ノート(その1)
高知大学教育学部研究報告第1部 39 1987. 8
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳・解題)『最新言語教授法』第10章「分析的教授学」
私家版 1987. 8
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳)『汎教育』中(第8章~第9章) 私家版 1987. 8
- 太 田 光 一 発達観と幼児教育の可能性—コメニウスからルソーへ—
青木他編『保育幼児教育体系9 保育の思想』 労働旬報社 1987. 11
- 佐 藤 令 子 コメニウスにおける生涯教育の構想—成人教育論を中心において—
橘女子大学研究紀要 14 1987. 12
- 中 城 進 コメニウスの教育学構想における人間観
関西大学教育学会 教育科学セミナー 19 1987. 12
- 高 橋 勉 成人教育の本質と遠隔学習(その1) 早稲田大学教育学部学術研究 36 1987. 12
- 藤 田 輝 夫 家庭教育から施設教育への集団指導法の変遷—コメンスキーの幼児教育論—
秋田大学教育学部研究紀要教育科学 38 1988. 2
- 井ノ口 淳 三 “Orbis sensualium pictus”の日本語表題に関する覚書
島根女子短期大学紀要 26 1988. 3
- 吉 岡 良 昌 コメニウス教育学の神学的前提について
昭和61・62年度科学研究費研究報告『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究』 1988. 3
- J・A・コメニウス (井ノ口淳三訳・解説)『世界図絵』 ミネルヴァ書房 1988. 5
- 小 町 眞 之 書評『世界図絵』 放送教育開発センター MME 研究ノート 1988. 4
- 太 田 光 一 外国文献・資料紹介 コメニウス研究誌、コメニウス全集その他について
教育学研究 55-2 1988. 6
- 岡 本 英 明 教育課題としての「がまん」—辛抱強さと自己実現の教育—
児童心理 42-6 1988. 6
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳・解題)『汎知学の前駆』 私家版 1988. 6
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳)『汎知学の試みの説明』 私家版 1988. 6
- 山 下 正 俊 書評『世界図絵』 山陰中央新報7月19日 1988. 7

追手門学院大学人間学部紀要 第8号

ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『演劇で表示された大祖アブラハム』	私家版	1988. 7
山田 敏	遊びの教育学的研究 32 荘子, コメニウス, ローレンツの遊び観	信州大学教育学部紀要 63	1988. 8
太田 光 一	コメニウスの『総勧告』研究ノート(その2) — ヨーロッパの光の人々に訴える序文	高知大学教育学部研究報告第1部 40	1988. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『甦えるジオゲネース・キニク』	私家版	1988. 8
佐藤 良吉	Comenius の教育世界—教育目的意識の定立とその展開	調布学園女子短期大学紀要 21	1988. 9
太田 光 一	コメニウスの教育思想の発展とイギリス訪問	日本の教育史学 31	1988. 10
貴島 正秋	コメニウスの『唯一の必要事』(Unum necessarium)における世界の混乱の原因とその解決法について	芦屋大学論叢 16	1988. 10
J・A・コメニウス	(田中寿紀訳)最新言語教授法(抄)	哲学Ⅱ-4 哲学書房	1988. 秋
藤原 幸男	コメニウスにおける幼児教育論の展開	琉球大学教育学部紀要第1部 33	1988. 11
太田 光 一	書評『世界図絵』『母親学校の指針』	教育 11月号 国土社	1988. 11
村田 修身	コメニウスの『世界図絵』とその影響について	山形県立米沢女子短期大学紀要 23	1988. 12
蔵原 三雪	書評『世界図絵』	高校生 12月号 高校出版	1988. 12
富重 与志生	近代的青少年文学の発見と再発見 — ヤン・アモス・コメンスキー —	高知大学学術研究報告 37 人文科学	1988. 12
古沢 常雄	書評『世界図絵』	日本の科学者 24-1 水曜社	1989. 1
藤原 幸男	コメニウスの道徳教育論	琉球大学法文学部紀要社会学篇 31	1989. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『必須の一事』	私家版	1989. 4
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『事物の扉』	私家版	1989. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎知学校』	私家版	1989. 8
佐藤 良吉	Comenius の学校世界—学校改革意識の基層とその展開	調布学園女子短期大学紀要 22	1989. 9
松島 均	コメニウス文庫と倉沢文庫	筑波大学図書館史	1989. 9
太田 光 一	『汎覚醒』の研究 — コメニウスの『総勧告』研究ノート(その3) —	高知大学教育学部研究報告第1部 41	1989. 10
大鷹 節子	コメニウスとレンブラント	日本商工会議所(在オランダ)かわら版 99	1989. 11
藤原 幸男	乳幼児の道徳性の発達と教育に関する歴史的研究 — コメニウスの場合 —	琉球大学教育学部紀要第1部 35	1989. 12
高橋 勉	成人教育の本質と遠隔学習(その2) — 高性能光ディスクファイルシステムの支援による『世界図絵』利用学習の実践 —	早稲田大学教育学部学術研究 38	1989. 12
高橋 勉 他	光動静画ディスクファイルをベースとするCAIシステムの研究 — 『世界図絵』を中核とする研究と実践 —	早稲田大学特定課題研究 62 B-15 報告書	1989. 12
Teruo Fujita	Komeniologové v Japonsku	<i>Studia comeniana et historica</i> 38-XIX	1989.
藤田 輝夫	J・A・コメンスキーの教授学における類比の方法について — その著『教授学全集第一巻』の方法 —	秋田大学教育学部研究紀要教育科学 41	1990. 2
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『ハンガリーでの講話』	私家版	1990. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『孤独について』	私家版	1990. 5
藤田 輝夫	J・A・コメンスキーの教授学における「新」の概念	教育学研究 57-2	1990. 6
土橋 寶	少年ゲーテと『世界図絵』	鳥取大学教育学部研究報告 教育学 32-1	1990. 8

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『天への手紙』	私家版	1990. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『良く秩序づけられた学校の法』	私家版	1990. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『栄えあるレジュノ・ギムナジウム』	私家版	1990. 8
太田光一	『汎啓明』の研究—コメニウスの『総勧告』研究ノート(その4)—	高知大学教育学部研究報告第1部 42	1990. 10
藤田輝夫	授業における主役—コメニウスの授業観	生活教育 503	1990. 10
堀内守	コメニウス	総合教育技術 10月号	1990. 10
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『モンタヌス宛の手紙』	私家版	1990. 11
佐藤令子	コメニウスにおける生涯教育の構想《老年期の学校 Schola Senii》	京都橋女子大学研究紀要 17	1990. 12
太田光一	国際教育史学会に参加して	教育学研究 57-4	1990. 12
佐藤良吉	Comenius の方法世界—教育方法意識とその基層	調布学園女子短期大学紀要 23	1990. 12
Reiko Sato	Das Neuerwachte Comeniusinteresse in Japan	K. Schaller (Hrsg.): <i>Zwanzig Jahre Comeniusforschung in Bochum</i>	1990.
井ノ口淳三	(訳・解説)世界科学者連盟(WFSW)第15回総会決議 12)	日本の科学者 26-1	1991. 1
藤田輝夫	コメンスキー教授学における教授機械の構想	教育方法学研究 16	1991. 3
太田光一	普遍的知恵への志向—J・A・コメニウスのパンソフィア—	会津短期大学研究年報 48	1991. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎教育』下(第10章~第16章)	私家版	1991. 3
高橋勉	ニューメディアで探る生涯学習のルーターコメニウス『世界図絵』を中心として	松下視聴覚教育研究財団研究助成課題実践報告書	1991. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『開かれた言語の扉』	私家版	1991. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『開かれた言語の前庭』	私家版	1991. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『ラテン語の前庭の補遺』	私家版	1991. 5
日本コメニウス研究会	『日本のコメニウス』1		1991. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『地上という迷宮と心という別荘』	私家版	1991. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎教育』上(第1章~第7章)	私家版	1991. 8
Teruo FUJITA	Vydání Díla Komeniologu v Japonstine	私家版	1991. 10
佐藤良吉	Comenius の教授技法世界—「的確性」の原理	調布学園女子短期大学紀要 24	1991. 12
石附実	風俗誌としての絵入り大衆教育本—『オルビス・ピクトゥス』と『人倫訓蒙図彙』—	大阪市立大学文学部紀要 43	1991. 12
山内芳文	コメニウス 大教授学	金子・三笠編『教育名著の愉しみ』時事通信社	1991. 12
藤田輝夫	「コメンスキー生誕400年記念学術集会 国際準備委員会に出席して」	日本チェコスロバキア協会 連絡ニュース 157	1991. 12
堀内守	コメニウスとこの時代	Human Educa	1992. 1
藤田輝夫	J・A・コメンスキーの教授原理と授業展開との接点	秋田大学教育学部研究紀要 教育科学 43	1992. 2
貴島正秋	コメニウスの『民族の幸福』(Gentis Felicitas: Das Glück des Volkes)における幸福論(そのI)	芦屋大学論叢 21	1992. 2
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『遊戯学校』	私家版	1992. 2

追手門学院大学人間学部紀要 第8号

ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳) ミラダ・ブレカシュタット：コメニウスより『エリヤの叫び』考察と抜粋	私家版	1992. 2
船越美穂	教育をとらえる「比喩モデル」研究—コメニウスとフレーベルの場合	教育方法学研究 17	1992. 3
石附実	教育比較への三視点	江藤恭二監修『教育近代化の諸相』名古屋大学出版会	1992. 3
井ノ口淳三, 太田光一, 佐藤令子, 藤田輝夫	座談会 現代に生きるコメニウス	教職課程 18-5 協同出版	1992. 3
パンソフィア協会	ΠΑΝΣΟΦΙΑ Vol. 1		1992. 4
藤田輝夫編	『コメニウスの教育思想』	法律文化社	1992. 4
井ノ口淳三	コメニウスの思想 どう生かす	朝日新聞 4月10日	1992. 4
堀内守	教育思想家コメニウス生誕400年 現代に通じる「知の編集」	朝日新聞 4月17日	1992. 4
貴島正秋	コメニウス教育学—祖国解放の父としてのコメニウス—	芦屋大学論叢別冊	1992. 5
貴島正秋	コメニウス教育学—流浪から平和を求めて—	一丸出版	1992. 6
松居直	コメニウス生誕四〇〇年よせて	出版クラブだより 329	1992. 6
藤田輝夫	コメニウスと近代教育学	私家版	1992. 6
山口満	書評：藤田輝夫編著『コメニウスの教育思想』	日本教育新聞 8月22日	1992. 8
貴島正秋	映画『コメニウスの生涯』を見て	日本チェコスロバキア協会 連絡ニュース 162	1992. 8
日本コメニウス研究会	『日本のコメニウス』2		1992. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『遊戯学校』—「言語の扉」の「舞台実践」— 第Ⅱ部～第Ⅴ部	私家版	1992. 8 ～1993. 3
山内芳文	コメニウス生誕400年と「コメニウス文庫」	筑波大学付属図書館つくばね 18-2	1992. 9
堀内守	教育の記号学(その9)—コメニウスの形態形成と構造転換—	名古屋大学教育学部紀要教育学科 39-1	1992. 11
貴島正秋	コメニウスの『唯一の必要事』におけるキリストの規則について	芦屋大学論叢 22	1992. 11
井ノ口淳三	『コメニウス関係文献所蔵目録』	私家版	1992. 11
藤田輝夫	「全ての者」に教育を—コメニウスの教育思想	私家版	1992. 11
佐藤令子	J・A・コメニウスにおける「アカデミア」(大学)構想	京都橘女子大学研究紀要 19	1992. 12
Yoshio TOMISHIGE	Der historische Ort von Komenskys alternativem geschichtsphilosophische Ansatz	高知大学学術研究報告 41 人文科学	1992. 12
山内芳文	コメニウス生誕400年記念行事について	教育学研究 59-4	1992. 12
寺尾慎一	一斉授業の史的展開とその構造(1)—コメニウスとランカスター—	福岡教育大学紀要 第4分冊教職科編 42	1993. 2
堀内守	教育の記号学(その10)—モデルとしてのドラマ—	名古屋大学教育学部紀要教育学科 39-2	1993. 3
太田光一	コメニウス生誕四百年記念の旅	会津短期大学研究年報 50	1993. 3
藤田輝夫	コメニウスの遺産と現代教育の課題	教育学研究 60-1	1993. 3

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

- 長谷川 栄 書評：藤田輝夫編著『コメニウスの教育思想』 教育方法学研究 18 1993. 3
- 井ノ口 淳 三 古典を読む コメニウス 季刊 保育問題研究 142 新読書社 1993. 3
- 太田 光一編 『コメニウスの総合的研究—生誕 400 年を記念して—』
平成 4 年度科学研究費補助金 研究成果報告書 1993. 3
- 井ノ口 淳 三 コメニウスの教科書と汎知学の展開 追手門学院大学紀要 27 1993. 5
- 正置 友子 『世界図絵』 千里タイムス 児童文学の散歩道 626 1993. 6
- 日本コメニウス研究会 『日本のコメニウス』 3 1993. 8
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳) 『遊戯学校』
—「言語の扉」の「実践」— 第 VI 部～第 VIII 部 私家版 1993. 8
- 古沢 常雄 フランスの教育史研究の状況 — 記念行事と最近の刊行物 —
フランス教育学会紀要 5 1993. 9
- 藤田 輝夫 「すべての者」に教育を — コメニウスの教育思想
筑波大学教育学系論集 18-1 1993. 10
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳) 『J・A・コメンスキーと彼の友人の幾つかの小さなラテン語の書』(「ダビデに対するナタンの秘話」, 「国民の繁栄」, 「教授学の落ち穂拾い」などを含む) 私家版 1994. 8
- 堀内 守 教育の記号学 (その 12) — コメニウスのテキスト論 —
名古屋大学教育学部紀要教育学科 41-1 1994. 9
- 日本コメニウス研究会 『日本のコメニウス』 4 1994. 9
- 佐藤 令子 コメニウスのエンサイクロペディア (汎知学) とデカルト
京都橘女子大学研究紀要 21 1994. 12
- 井ノ口 淳 三 教授メディアとしての『世界図絵』 追手門学院大学文学部紀要 30 1994. 12
- 藤田 輝夫 コメンスキーの教育理論における学習論の位置
秋田大学教育学研究 — 改革と教育 戸田金一教授退官記念号 — 1995. 2
- 貴島 正秋 コメニウスの『Janua Rerum Reserata』(事物の開かれた門) の出版意図について — 「ヨーロッパの学識者への緒言」を中心として —
芦屋女子短期大学研究紀要 21 1995. 3
- 石川 達夫 『マサリクとチェコの精神』 成文社 1995. 5
- 石 附 実 『教育の比較文化誌』 玉川大学出版部 1995. 6
- 乙 訓 稔 J・A・コメニウスの幼児教育論 実践女子大学生生活科学部紀要 32 1995. 7
- 日本コメニウス研究会 『日本のコメニウス』 5 1995. 8
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳) 「人間に関わる事柄」についての「総審議」第 6 部
『汎改革』 私家版 1995. 8
- コメニウス (太田光一訳) 『総審議の序文』, 第 1 部『汎覚醒』, 第 2 部『汎啓明』 私家版 1995. 8
- ミラン・ソボトツカ (相馬伸一訳) J・A・コメニウスと彼の時代の哲学
広島修道大学人文学会 広島修大論集 36-1 (人文編) 1995. 9
- 井ノ口 淳 三 今なぜコメニウス研究か 授業研究 21, 439 号 明治図書 1995. 12
- J・A・コメニウス (井ノ口淳三訳, 高山宏解説) 『世界図絵』 平凡社 1995. 12
- 井ノ口 淳 三 コメニウス『世界図絵』の「第 II 部」における諸問題
追手門学院大学人間学部紀要 1 1995. 12
- 貴島 正秋 コメニウスの『唯一の必要事』(Unum necessarium) における為政者の使命について
芦屋大学論叢 24 1996. 2
- 貴島 正秋 コメニウスの『事物の開かれた門』の出版意図について (II)
芦屋女子短期大学研究紀要 22 1996. 2

追手門学院大学人間学部紀要 第8号

- イヴァナ・ツォルネヨヴァー (相馬伸一訳) イエズス会学校とヤン・アモス・コメニウス
 広島修道大学人文学会 広島修大論集 36-2 (人文編) 1996. 3
- J・A・コメニウス (藤田輝夫訳) 『汎教育』 秋田大学大学院教育学研究科
 社会教育学研究室『社会教育学研究』 3 1996. 4
- 日本コメニウス研究会 『日本のコメニウス』 6 1996. 8
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳) 「人間に関わる事柄」についての「総審議」第5部
 『汎言語学』 私家版 1996. 8
- 相馬伸一 コメニウス—デカルトをめぐる諸論議(1)
 広島修道大学人文学会 広島修大論集第37巻第1号2 (人文編) 1996. 9
- クラウス・シャラー (相馬伸一訳) デカルト主義に対するコメニウスの論争
 —汎知学的教育学における現代性の新次元—
 筑波大学外国教育史研究室年報『西洋教育史研究』 25 1996. 10
- 尾上明子 コメニウスにおけるキリスト教教育—「キリスト教保育指針」との関連に
 おいて— 名古屋柳城短期大学研究紀要 18 1996. 12
- マーク・グリーングラス (相馬伸一訳) 一七世紀知識人の財政—1637~1641年間のコメニウス
 への献金 広島修大論集第37巻第2号 (人文編) 1997. 3
- 藤田輝夫 コメニウス研究集会 教育学研究 64-1 1997. 3
- 井ノ口淳三 『地上の迷宮と魂の楽園』におけるコメニウスの意図
 追手門学院大学創立三十周年記念論集 人間学部編 1997. 3
- Junzo INOKUCHI The Faith and Education in J. A. Comenius,
Japanese Slavic and East European Studies Vol. 18. 1997. 3
- 大田光一 コンピュータ利用によるコメニウスの『世界図絵』研究の試み
 科学研究費補助金 研究成果報告書 1997. 3
- 稲垣滋子 18世紀ロシアの日本語教育における教育観—ゴンザ訳『日本語会話入門』
 を中心に 日本語教育学会春季大会 予稿集 1997. 5
- 千野栄一 チジェフスキーとコメンスキー ユリイカ 29-7 青土社 1997. 6
- 千野栄一 パングロッチェア ユリイカ 29-9 青土社 1997. 7
- 上村忠昌 ゴンザの鹿児島方言への訳し方—オルビス・ピクトゥス(世界図絵)の場
 合— 鹿児島工業高等専門学校研究報告 32 1997. 8
- 日本コメニウス研究会 『日本のコメニウス』 7 1997. 8
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳) 『汎改革』 改訳・私家版 1997. 8
- 相馬伸一 コメニウス—デカルトをめぐる諸論議(3)
 筑波大学外国教育史研究室年報『西洋教育史研究』 26 1997. 10
- 寺田元一 一七世紀百科全書主義(汎智)から一八世紀『百科全書』(編集知)へ
 —情報社会化による知の転換—
 唯物論研究協会『唯物論研究年誌』 2 青木書店 1997. 10
- 井ノ口淳三 日本におけるコメニウス研究の成果と課題 追手門学院大学人間学部紀要 5 1997. 12
- コメニウス (江口泰生訳・解説) 『図解感覚世界』 鹿児島県立図書館 1998. 3
- ヤン・アモス・コメンスキー (藤田輝夫訳) 「人間に関わる事柄」についての「総審議」
 第7部『汎勸奨』 私家版 1998. 5
- 佐藤令子 《コメニウス・ルネッサンス》の意味 教育哲学研究 77 1998. 5
- 井ノ口淳三 チェコにおけるコメニウス研究の現状 教育学研究 65-2 1998. 6
- 上村忠昌 教育学者ボグダーノフのテキスト作り 鹿児島工業高等専門学校研究報告 33 1998. 8
- 薩摩秀登 『プラハの異端者たち』—中世チェコのフス派にみる宗教改革— 現代書館 1998. 8

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

井ノ口 淳 三	『コメニウス教育学の研究』	ミネルヴェ書房	1998. 8
日本コメニウス研究会	『日本のコメニウス』 8		1998. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳) 第7部『汎勸奨』	改訳・私家版	1998. 8
コメニウス	(太田光一訳) 第1部『汎覚醒』	改訳・私家版	1998. 8
コメニウス	(太田光一訳) 第2部『汎啓明』	改訳・私家版	1998. 8
コメニウス	(太田光一訳) 第3部『汎知学』	抄訳・私家版	1998. 8
M・V・クラトフヴィル	(太田光一訳)『コメニウスの生涯』	改訳・私家版	1998. 8
井ノ口 淳 三	漂流民ゴンザによるコメニウスの翻訳	追手門学院大学人間学部紀要 7	1998. 12
貴 島 正 秋	生涯教育の歴史的始原について — コメニウスの教育を中心に —	芦屋大学論叢 30	1999. 3
藤 田 輝 夫	コメニウス研究の新しい課題を探る	教育学研究 66-1	1999. 3
貴 島 正 秋	書評：井ノ口淳三著『コメニウス教育学の研究』	阪神教協レポート 22	1999. 3

なお、これまで日本語に翻訳されたコメニウスの著作には以下のものがある。大部分は上記の目録と重複するが、藤田輝夫氏のご功績に深謝し、あわせて読者の便宜をはかるため、ここにまとめて掲載する。

コメニウス	(ゴンザ訳)『日本語会話入門』(『開かれた言語の前庭』)	私家版	1736
コメニウス	(ゴンザ訳)『オルビス・ピクトゥス』(『世界図絵』)	私家版	1739
コメニウス	(辻 幸三郎訳)『聖の世界と教育』(『大教授学』第14章まで)	目黒書店	1924. 6
コメニウス	(稲富栄次郎訳)『大教授学』	玉川大学出版部	1956. 10
コメニウス	(鈴木秀勇訳)『大教授学』	明治図書	1962. 9
ヤン・アモス・コメンスキー	(村山七郎翻刻・解説)『漂流民の言語』(ゴンザの翻訳した『日本語会話入門』を読みやすく翻刻したものを含む)	吉川弘文館	1965. 4
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『ラテン語学習についての教授学論』	私家版	1985. 12
コメンスキー	(藤田輝夫訳・解題)『母親学校の指針』	玉川大学出版部	1986. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳・解題)『最新言語教授法』第10章「分析的教授学」	私家版	1987. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎教育』中(第8章～第9章)	私家版	1987. 8
J・A・コメニウス	(井ノ口淳三訳・解説)『世界図絵』	ミネルヴェ書房	1988. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳・解題)『汎知学の前駆』	私家版	1988. 6
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎知学の試みの説明』	私家版	1988. 6
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『演劇で表示された大祖アブラハム』	私家版	1988. 7
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『甦えるジオゲネース・キニク』	私家版	1988. 8
J・A・コメニウス	(田中寿紀訳)最新言語教授法(抄)	哲学II-4 哲学書房	1988. 秋
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『必須の一事』	私家版	1989. 4
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『事物の扉』	私家版	1989. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎知学校』	私家版	1989. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『ハンガリーでの講話』	私家版	1990. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『孤独について』	私家版	1990. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『天への手紙』	私家版	1990. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『良く秩序づけられた学校の法』	私家版	1990. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『栄えあるレシュノ・ギムナジウムの法』	私家版	1990. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『モンタヌス宛の手紙』	私家版	1990. 11

ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎教育』下(第10章～第16章)	私家版	1991. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『開かれた言語の扉』	私家版	1991. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『開かれた言語の前庭』	私家版	1991. 5
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『ラテン語の前庭の補遺』	私家版	1991. 5
コメンスキー	(藤田輝夫訳)『知恵の箕』『日本のコメニウス』1 日本コメニウス研究会		1991. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『地上という迷宮と心という別荘』	私家版	1991. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎教育』上(第1章～第7章)	私家版	1991. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『遊戯学校』第I部	私家版	1992. 2
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)ミラダ・ブレカシュタット:コメニウスより 『エリヤの叫び』考察と抜粋	私家版	1992. 2
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『遊戯学校』 —「言語の扉」の「舞台実践」— 第II部～第V部	私家版	1992. 8 ～1993. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『遊戯学校』 —「言語の扉」の「実践」— 第VI部～第VIII部	私家版	1993. 8
コメンスキー	(藤田輝夫訳)『炬火の引き渡し』及び『「教授学」の「補遺」』 『日本のコメニウス』3 日本コメニウス研究会		1993. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『J・A・コメンスキーと彼の友人の幾つかの小さなラテン語の書』(「ダビデに対するナタンの秘話」,「国民の繁栄」,「教授学の落ち穂拾い」などを含む)	私家版	1994. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『平和の天使』 『日本のコメニウス』4 日本コメニウス研究会		1994. 9
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)「人間に関わる事柄」についての「総審議」第6部 『汎改革』	私家版	1995. 8
コメニウス	(太田光一訳)『総審議の序文』, 第1部『汎覚醒』, 第2部『汎啓明』	私家版	1995. 8
J・A・コメニウス	(井ノ口淳三訳, 高山宏解説)『世界図絵』	平凡社	1995. 12
J・A・コメニウス	(藤田輝夫訳)『汎教育』 秋田大学大学院教育学研究科 社会教育学研究室『社会教育学研究』3		1996. 4
J・A・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『運命の建造者』 『日本のコメニウス』6 日本コメニウス研究会		1996. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)「人間に関わる事柄」についての「総審議」第5部 『汎言語学』	私家版	1996. 8
コメンスキー	(藤田輝夫訳)「コルボフへの手紙」		
コメンスキー	(藤田輝夫訳)『教授学機械』『日本のコメニウス』7 日本コメニウス研究会		1997. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎改革』	改訳・私家版	1997. 8
コメニウス	(江口泰生翻刻・解説)『図解感覚世界』(ゴンザの翻訳した『オルビス・ピクトゥス』を読みやすく翻刻したもの)	鹿児島県立図書館	1998. 3
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)「人間に関わる事柄」についての「総審議」第7部 『汎勸奨』	私家版	1998. 5
J・A・コメンスキー	(藤田輝夫訳)『汎知学事実辞典』(前半) 『日本のコメニウス』8 日本コメニウス研究会		1998. 8
ヤン・アモス・コメンスキー	(藤田輝夫訳)第7部『汎勸奨』	改訳・私家版	1998. 8
コメニウス	(太田光一訳)第1部『汎覚醒』	改訳・私家版	1998. 8
コメニウス	(太田光一訳)第2部『汎啓明』	改訳・私家版	1998. 8

井ノ口・太田：コメニウス関係文献目録

コメニウス (太田光一訳) 第3部『汎知学』 抄訳・私家版 1998. 8

(付記)

これまでに発表されたコメニウス関係の文献目録には以下のものがある。

- ① 井ノ口淳三 「コメニウス関係日本語文献目録」 日本教育学会 教育学研究 44-3 1977. 9
- ② 井ノ口淳三・太田光一 「コメニウス関係文献目録」
日本コメニウス研究会『日本のコメニウス』1～8 (7を除く) 1991. 8
～1998. 8
- ③ 井ノ口淳三・太田光一 「コメニウス関係文献目録」
太田光一編『コメニウスの総合的研究——生誕400年を記念して——』
平成4年度科学研究費補助金 研究成果報告書 1993. 3

また、所蔵目録には次のものがある。

- ④ 東京教育大学 『コメニウス文庫蔵書目録』 1961
- ⑤ 日本教育学会 『コメニウス関係文献目録』 1970. 8
- ⑥ 井ノ口淳三 『コメニウス関係文献所蔵目録』 私家版 1992. 11

本文献目録は、上記の①～③の目録を基にして、その後の調査により補正したものである。コンピュータの発達した今日、このような文献目録の作成を疑問視する声も聞こえないわけではない。しかし、コメニウス関係の文献には古いものが多く、それらのすべてを入力していない図書館もある。また、表題にコメニウスの文字の出ているものは検索できない。このような事情から、コンピュータが発達してもなお独自に文献目録を作成する意味が存在するのである。

最近では全国の図書館の相互利用制度によって、論文の複写を入手することは容易になった。しかし、目次や奥付まで複写することは慣例となっていない。また、論文の別刷りに発行年月日まで記入しているものも少ない。さらに、戦前に発行された雑誌の復刻版の中には奥付のページを省いて製本しているものもある。そして外国の雑誌や刊行物の中には発行年のみしか記入していないものもある。このようなわけで、本文献目録を編集するに際して改めて発行月を調査した。したがって、発行月の記入していない文献は、もともと記載のないものである。

なお本文献目録の作成に際して、追手門学院大学附属図書館の高畑悦子氏に大変お世話になった。ここに記して感謝の意を表するものである。
(文責 井ノ口淳三)

1999年3月29日 受理